

塞上にて笛を吹くを聞く

高

適

雪浄く胡天馬を牧して還る

月明らかに羌笛成楼の間

借問す梅花何れの処よりか落る

風吹いて一夜関山に満つ

【作者】高 適(七〇二頃〜七六五年)盛唐代の詩人。字は達夫。滄州渤海の人。辺塞の離情を多くよむ。

【語釈】*塞上:…国境附近。 *胡天:(…西方の)えびすの地の空。 *羌笛:…青海地方にいた西方異民族(チベット系)の吹く笛。 *成

樓:…国境防備の歩哨所。 *借問:…訊ねる。試みに問う。ちよつと質問する。 *梅花:…春を告げる梅の花」という意味と笛曲の名を兼ねている。 *関山:…関所となるべき要害の山。

【通釈】雪が清らかなえびすの地で、牧馬からもどつてくると。晴天で満月に近い時なので月は明らかで、西方異民族(チベット系)の吹く笛の音が防衛のための物見櫓の間から聞こえてきた。少しお訊ねするがこの「梅花」の笛の音はどこから散つてくるのだろうか。風が吹いてきて、一晩中、ここ関となる山に満ちてしまった。